

①歩行者天国実施事業

担当部局(所管課)		商工労働観光部(商工労政課)		事業開始年度	平成28年度
事業概要		【目的】 歩行者天国の開催を通して中心部に新たな魅力を創出し、中心市街地の回遊性向上や来街者のまちなか滞留時間の延長を図ることにより、中心市街地の活性化につなげ、ひいては、本市はもとより県内全域の経済活性化を目指す。			
		【活動内容】 歩行者天国の実施主体である大分市中央通り歩行者天国推進委員会に対して、開催補助金を交付することにより、円滑な事業実施を図る。当該委員会は、学識経験者のほか、商店街、公共交通機関、経済団体、報道機関、行政の各関係者から構成されており、歩行者天国の実施に当たり、イベント内容の企画や関係機関との調整、市内外に向けた情報発信等を行う。なお、歩行者天国の効果等を検証するための歩行者通行量調査は市が実施する。 平成30年度は、4月22日(日)午後1時～4時、9月22日(土)午後1時～4時、11月3日(土)午後1時～4時の3回実施。			
事業費		平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額	
		29,155 千円	24,146 千円	23,952 千円	
財源内訳	地方創生交付金	14,577 千円	12,073 千円	千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	一般財源	14,578 千円	12,073 千円	23,952 千円	
重要業績評価指標 (KPI = Key Performance Indicator)					
指標名		目標値(平成30年度)	実績値(平成30年度)	達成状況	
① 歩行者天国イベントへの来場者数		25,000 人	29,333 人	達成	
② まちなかに3時間以上滞留する人の割合		40.0 %	57.7 %	達成	
③ 中心市街地の空き店舗率		5.3 %	9.8 %	未達成	
内部評価					
事業効果	A : 高い (B) : やや高い C : ふつう D : やや低い E : 低い				
評価理由	平成30年度は、すべてのイベントで晴天に恵まれたことや国民文化祭・障害者芸術・文化祭、スポーツ・オブ・ハート等との同時開催による相乗効果もあり、指標①の目標に掲げた来場者を上回る結果となった。指標②については、すべてが本事業による効果ではないが、目標値を上回る結果となり、中心市街地の魅力アップにつながっているものとする。一方、指標③については、前年度実績の11.8%から2.0ポイント減少するなど一定の成果はあったものの目標は達成できなかった。空き店舗率の減少に向け、他の中心市街地活性化施策も実施するなど継続的な取組が求められる。 また、歩行者天国の開催に合わせて複数の商店街において、食や音楽などの独自イベントが開催されており、それぞれの商店街が人を呼び込み、売上を向上させるための自助努力を行う気運も高まっていることから、一定の成果があったものとする。				
今後の方向性(考え方)	令和元年6月・10月の開催を含め、これまで10回の実施により、中心市街地の新たな魅力として定着しつつあるが、現状では、その効果が未だ短期的であり、また、中心市街地の範囲に留まっていると考えられることから、長期的な視点での商店街の魅力向上や空き店舗の解消、さらには、地域経済の活性化につなげていく必要がある。 今後、本事業を維持させていくためには、他のイベントとの同時開催、県内市町村による連携ブースの拡充といった内容の充実や、9月に完成した「祝祭の広場」の有効活用をはじめとした実施手法の改善、さらには、商店街や個店それぞれのより一層の自助努力を促していく必要がある。				
外部行政評価委員会意見					

平成30年度 地方創生推進交付金対象事業

事業番号		1																									
事業概要説明書																											
事業事業名		歩行者天国実施事業																									
担当部署	商工労働観光部	担当所属	商工労働課																								
事業開始年度	平成28年度	根拠法令等																									
実施方法		☒ 直接実施(アンケート調査、交通量調査等) ☐ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:) ☒ 補助金(補助先: 大分市中央通り歩行者天国推進委員会 実施主体: 同左) ☐ その他()																									
目的 (何のために)		市道中央通り線を活用した歩行者天国の開催により、本市中心部に新たな魅力を創出し、中心市街地の回遊性の向上や来街者のまちなか滞留時間の延長を図ることにより、中心市街地の活性化につなげ、ひいては本市全域はもとより、県内全域の経済活性化を目指す。																									
対象・手段 (誰・何)に対して 何をするのか		歩行者天国の実施主体である「大分市中央通り歩行者天国推進委員会」に対して、開催補助金を交付することにより事業の円滑な実施を推進している。 当該推進委員会は、歩行者天国の開催にあたり、イベント内容の企画や関係機関等との調整を行うとともに、市内外に向けて情報を発信し、効果的に実施している また、歩行者天国とその他のイベントとの連携を図ることで相乗効果を生み出す なお、当該推進委員会は、商店街や経済界、学識経験者、公共交通事業者、報道機関、行政等から構成されている。 《参考》 歩行者天国の実績(推移) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第6回 (H30.4.22)</th> <th>第7回 (H30.9.22)</th> <th>第8回 (H30.11.3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イベント実施時間 (交通規制時間)</td> <td>13～16 (12～17)</td> <td>13～16 (12～17)</td> <td>13～16 (12～17)</td> </tr> <tr> <td>《天気、最高気温》</td> <td>《晴れ、25℃》</td> <td>《晴れ、35℃》</td> <td>《晴れ、19℃》</td> </tr> <tr> <td>来場者数 (1時間あたり)</td> <td>2.9万人 (5,800人)</td> <td>2.7万人 (5,400人)</td> <td>3.2万人 (6,400人)</td> </tr> <tr> <td>コンセプト</td> <td>花と マルシェとお座敷と</td> <td>スポーツの秋 食欲の秋 ホコ天の秋！！</td> <td>進(ほとばしる熱気！溢れる音楽の 五感を弾く 粋＆華ホコ天！！</td> </tr> <tr> <td>同時イベント内容</td> <td>・シックスラウンジライブ</td> <td>・スポーツオブハート ・ハンドシェイクマルシェ (中央町)</td> <td>・第10回豊の国 YOSAKOIまつり ・大分市やま揃え ・まちなかものづくり マーケット(中央町)</td> </tr> </tbody> </table>			第6回 (H30.4.22)	第7回 (H30.9.22)	第8回 (H30.11.3)	イベント実施時間 (交通規制時間)	13～16 (12～17)	13～16 (12～17)	13～16 (12～17)	《天気、最高気温》	《晴れ、25℃》	《晴れ、35℃》	《晴れ、19℃》	来場者数 (1時間あたり)	2.9万人 (5,800人)	2.7万人 (5,400人)	3.2万人 (6,400人)	コンセプト	花と マルシェとお座敷と	スポーツの秋 食欲の秋 ホコ天の秋！！	進(ほとばしる熱気！溢れる音楽の 五感を弾く 粋＆華ホコ天！！	同時イベント内容	・シックスラウンジライブ	・スポーツオブハート ・ハンドシェイクマルシェ (中央町)	・第10回豊の国 YOSAKOIまつり ・大分市やま揃え ・まちなかものづくり マーケット(中央町)
	第6回 (H30.4.22)	第7回 (H30.9.22)	第8回 (H30.11.3)																								
イベント実施時間 (交通規制時間)	13～16 (12～17)	13～16 (12～17)	13～16 (12～17)																								
《天気、最高気温》	《晴れ、25℃》	《晴れ、35℃》	《晴れ、19℃》																								
来場者数 (1時間あたり)	2.9万人 (5,800人)	2.7万人 (5,400人)	3.2万人 (6,400人)																								
コンセプト	花と マルシェとお座敷と	スポーツの秋 食欲の秋 ホコ天の秋！！	進(ほとばしる熱気！溢れる音楽の 五感を弾く 粋＆華ホコ天！！																								
同時イベント内容	・シックスラウンジライブ	・スポーツオブハート ・ハンドシェイクマルシェ (中央町)	・第10回豊の国 YOSAKOIまつり ・大分市やま揃え ・まちなかものづくり マーケット(中央町)																								
事業の必要性		本市においても人口減少に陥じ、生産年齢人口が減少することが見込まれており、地域経済の活性化が喫緊の課題となっている。また、本市は大都市圏の中心市として圏域全体の経済をけん引することが求められている。 こうした中、歩行者天国も中心市街地のにぎわい創出や県内他市町村の魅力発信の場となっており、地方創生の実現に向けた取組として必要な事業と考える。																									

年 度		平成30年度(予算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
財 源	直接事業費	29,155 千円	24,244 千円	23,952 千円
	地方創生交付金	14,577 千円	12,073 千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円
	一般財源	14,578 千円	12,171 千円	23,952 千円
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)		目標値 (平成30年度)
		歩行者天国イベントへ1回あたりの来場者数		25,000人
		まちなかに3時間以上滞留する人の割合		40.0%
		中心市街地の空き店舗率		5.3%
自己評価	実績評価 (目指す成果に対する 実績・達成度)	来場者数は、全てのイベントで晴天に恵まれたこともあり、目標値を上回る結果となった。 まちなかに3時間以上滞留する人の割合も、目標値を大幅に上回るなど、着実に中心市街地の魅力アップにつながっているものと考ええる。 中心市街地の空き店舗率については、目標値は下回ったものの、前年度からは2%減少するなど一定の成果はあったものと考ええる。 なお、市独自試算による歩行者天国実施時(H28～30までの8回)の経済効果額は約1.4億円となったものの、目標とした約2億円を下回る結果となった。		
	今後の方向性・課題 ／ 改革案	令和元年6月・10月の開催を含め、これまで10回の実施により、中心市街地の新たな魅力を創出するイベントとして定着しつつある。今後も定期的に実施する中、長期的な視点での商店街の魅力向上や空き店舗の解消、更には地域経済の活性化につながるような工夫が必要である。 また、空き店舗率の減少に向け、空き店舗への出店サポートや既存店舗の継続を促す取組などの支援策に加え、中心市街地の魅力を創出する本事業を実施することで相乗効果を生み出していくことも重要である。 さらに、次回からは、新たに「祝祭の広場」の活用を予定するなど、今後も様々な試行錯誤を行いながら、さらに効果的かつ効果的なイベントに成長させていく必要がある。		
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		【札幌市(H29) 名称:さっぽろホコテン 予算:約100万円/18回] 実施主体:札幌大通まちづくり株式会社 実施場所:札幌中心部の駅前通・南一条通 実施回数:年18回 特 徴:昭和48年から多くの市民や観光客が行き交う大通エリアで利用を希望する民間団体や企業から使用料金を徴収しながら実施している。 【帯広市(H29) 名称:オビヒロホコテン 予算:約500万円/12回] 実施主体:帯広まちなか歩行者天国実行委員会 実施場所:西2条通り 8丁目・9丁目、西1条通りから西2条藤丸南側まで 実施回数:年12回 特 徴:平成18年から市民ボランティアによる実行委員会形式で実施しており、市民サークルや学校、企業等が持ち込み形式で企画を行っている。		
特記事項 (参考情報等)		各回ごとに時期やイベント内容に併せて開催時間を考慮する必要がある。		

②アートレジオン推進事業

担当部局(所管課)		企画部(文化国際課)		事業開始年度	平成29年度
事業概要		《目的》 人口減少や少子高齢化が進む佐賀関、野津原、大南地区の周辺地域にアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動を通して文化芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで地域の活性化につなげる。			
		《活動内容》 本事業の柱として、佐賀関地区の学校跡地(旧大志生木小学校)の一部をアトリエとして活用し、地域とアーティストが連携したアートイベントを各地区で開催することで地域の活性化につなげる。 また、移住・定住を促進するため、アーティストに特化した移住ガイドブックを配布するほか、大分都市広域圏の連携事業として移住見学ツアーを開催することで、地方への潜在的な移住希望者の掘り起こしを図る。			
事業費		平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額	
		10,481 千円	4,114 千円	8,460 千円	
財源内訳	地方創生交付金	5,240 千円	1,833 千円	4,230 千円	
	県支出金	千円	千円	千円	
	一般財源	5,241 千円	2,281 千円	4,230 千円	
重要業績評価指標 (KPI = Key Performance Indicator)					
指標名		目標値(平成30年度)	実績値(平成30年度)	達成状況	
① アーティスト移住者数		1 人	0 人	未達成	
② 移住体験(見学)アートツアーの開催		2 回	1 回	未達成	
③ ワークショップ等のイベント開催数		2 回	3 回	達成	
内部評価					
事業効果	A : 高い B : やや高い C : ふつう D : やや低い E : 低い				
評価理由	指標①については、旧大志生木小学校のアトリエ利用者から30年度に移住意向があったものの、居住先との調整により本年8月の移住となったため未達成となった。しかし、アーティスト移住ガイドブックを活用した情報発信やアトリエの環境整備等を行った結果、現在6組のアーティストがアトリエ利用しており、今後さらなる移住・定住者の増加が期待される。 指標②については、国民文化祭の影響により年1回の実施となったが個別の見学受入れも行っている点は評価できる。大分都市広域圏の連携事業として実施したバスツアーでは、移住や空き家活用の各担当部署と連携したプログラムを圏域内で実施するなど、ツアー内容の充実が伺える。 また、指標③については、佐賀関地区に加え、新たに大南地区でも、地域、アーティストが連携を図りながら実施し、市内外から多くの方が訪れるなど、地域の活性化に寄与した。また、大分都市広域圏で連携したイベントを大分市中心部で開催し、アーティストの活躍の場を創出した。(参加者総数430名 内訳:佐賀関320人、大南30人※台風のため保育所に通う子どものみ、中心部80人)				
今後の方向性(考え方)	本事業の柱である旧大志生木小学校のアトリエ活用については現在6組が活動中である。今後もアトリエ利用の需要が見込めることから、他地域における学校跡地等を活用したアトリエ利用について、関係課と連携を図りながら推進していく必要がある。 また、呼び込んだアーティストについても定住につながるよう、大分都市広域圏で連携したワークショップの開催や作品発表の場の提供といった活動支援を行っていく必要がある。 移住ツアーについては、費用対効果を踏まえ、移住担当部署による相談会を活用するなど、実施手法の見直しを検討する必要がある。 ワークショップ等のイベントについては、佐賀関、大南地区に加え、野津原地区へと展開していくことで、地域活性化の効果を広範囲に波及させていく必要がある。				
外部行政評価委員会意見					

事業番号		2		平成30年度 地方創生推進交付金対象事業											
事業概要説明書															
事務事業名		アートレジオン推進事業													
担当部署		企画部	担当所属	文化国際課	担当班・係	文化企画担当班									
事業開始年度		平成29年度	根拠法令等												
実施方法 (該当するものをすべてにチェック)		☒ 直接実施													
		☐ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:)													
		☐ 補助金(補助先:		実施主体:)											
		☐ その他()													
事業の概要	目的 (何のために)	人口減少や少子高齢化が進む佐賀関、野津原、大南地区の周辺地域に市内外からアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動を通して文化芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで地域の活性化につなげる。													
	対象・手段 (誰(何)に対して何をするのか)	魅力的なアーティストを戦略的に呼び込むために、「アーティストの移住・定住促進」と「アートイベントによる地域の活性化」の2本柱で、効果的な事業の推進を図る。 まず、地方への移住を考えているアーティストに対して、本市へ興味をもっていただくための各種取組を推進することで、潜在的な移住希望者の掘り起こしを図る。また、地域おこし協力隊(文化芸術振興部門)と連携・協力を図り、創作活動や作品発表の場を提供することで任期後の定住につなげる。 次に、アーティストと地域が連携したアートイベントを開催し、市内外から参加してもらうことで地域の活性化につなげる。また、呼び込んだアーティストの創作活動の場として、佐賀関地区の旧大志生木小学校の一部をアトリエとして活用するとともに、地域とアーティストとの交流拠点とする。 【平成30年度の実施内容】 <table><tr><th>項 目</th><th>内 容</th></tr><tr><td>旧大志生木小学校のアトリエ活用</td><td>佐賀関地区の旧大志生木小学校のアトリエ活用を促進するため、アーティスト移住ガイドブックを活用した情報発信やアトリエ等の環境整備を行った。</td></tr><tr><td>周辺地域におけるアートイベント (佐賀関地区、大南地区)</td><td>昨年度に引き続き、旧大志生木小学校で、アーティストと地域が連携しながら、ワークショップや作品展示、旧小学校の歴史展、地元産品の販売等を行った。また、新たに大南地区でも開催し、ワークショップや地域の小学校のPRを行った。 ■第2回 開校！大志生木こどもアート学校 開催月日：平成30年8月18日・19日 場所：旧大志生木小学校 ■第1回 開校！河原内こどもアート学校 開催月日：平成30年8月23日 場所：河原内くすのきホール</td></tr><tr><td>おおいたアート移住見学ツアー (大分都市広域圏 連携事業)</td><td>地方移住に興味のあるアーティストを対象に、圏域内にアトリエを構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを開催した。 ■開催月日：平成31年2月21日・22日 場所：大分市・竹田市</td></tr><tr><td>大分都市広域圏アートフェア (大分都市広域圏 連携事業)</td><td>圏域で活動するアーティストによる作品展示やワークショップを開催し、圏域の芸術文化及び地域資源の魅力の情報発信を行った。 ■開催月日：平成30年9月24日 場所：JRおおいたシティ タイムズスクエア</td></tr></table>					項 目	内 容	旧大志生木小学校のアトリエ活用	佐賀関地区の旧大志生木小学校のアトリエ活用を促進するため、アーティスト移住ガイドブックを活用した情報発信やアトリエ等の環境整備を行った。	周辺地域におけるアートイベント (佐賀関地区、大南地区)	昨年度に引き続き、旧大志生木小学校で、アーティストと地域が連携しながら、ワークショップや作品展示、旧小学校の歴史展、地元産品の販売等を行った。また、新たに大南地区でも開催し、ワークショップや地域の小学校のPRを行った。 ■第2回 開校！大志生木こどもアート学校 開催月日：平成30年8月18日・19日 場所：旧大志生木小学校 ■第1回 開校！河原内こどもアート学校 開催月日：平成30年8月23日 場所：河原内くすのきホール	おおいたアート移住見学ツアー (大分都市広域圏 連携事業)	地方移住に興味のあるアーティストを対象に、圏域内にアトリエを構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを開催した。 ■開催月日：平成31年2月21日・22日 場所：大分市・竹田市	大分都市広域圏アートフェア (大分都市広域圏 連携事業)
項 目	内 容														
旧大志生木小学校のアトリエ活用	佐賀関地区の旧大志生木小学校のアトリエ活用を促進するため、アーティスト移住ガイドブックを活用した情報発信やアトリエ等の環境整備を行った。														
周辺地域におけるアートイベント (佐賀関地区、大南地区)	昨年度に引き続き、旧大志生木小学校で、アーティストと地域が連携しながら、ワークショップや作品展示、旧小学校の歴史展、地元産品の販売等を行った。また、新たに大南地区でも開催し、ワークショップや地域の小学校のPRを行った。 ■第2回 開校！大志生木こどもアート学校 開催月日：平成30年8月18日・19日 場所：旧大志生木小学校 ■第1回 開校！河原内こどもアート学校 開催月日：平成30年8月23日 場所：河原内くすのきホール														
おおいたアート移住見学ツアー (大分都市広域圏 連携事業)	地方移住に興味のあるアーティストを対象に、圏域内にアトリエを構えるアーティストのアトリエ見学や意見交換、各市の魅力・移住支援等を紹介するバスツアーを開催した。 ■開催月日：平成31年2月21日・22日 場所：大分市・竹田市														
大分都市広域圏アートフェア (大分都市広域圏 連携事業)	圏域で活動するアーティストによる作品展示やワークショップを開催し、圏域の芸術文化及び地域資源の魅力の情報発信を行った。 ■開催月日：平成30年9月24日 場所：JRおおいたシティ タイムズスクエア														
事業の必要性		今後、本市では人口減少に転じることが予測されており、特に少子高齢化も著しい周辺地域においては、人口の維持や地域の活性化等が喫緊の課題となっている。また、本市は大分都市広域圏の中心市として、連携協約に掲げる「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」に基づいた、移住・定住対策をけん引することが求められている。													
		こうした中、全国でも特色ある事業を推進するため、アーティストのような魅力ある人材を本市の周辺地域及び圏域市町に誘致し、その人がさらなる人を呼び込む相乗効果も合わせることで、地域の活性化を図っていく必要がある。													

年 度		平成30年度(予算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)						
直接事業費		10,481 千円	4,114 千円	8,460 千円						
財 源	地方創生交付金	5,240 千円	1,833 千円	4,230 千円						
	県支出金	千円	千円	千円						
	一般財源	5,241 千円	2,281 千円	4,230 千円						
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)	指標値	実績値(31年3月)						
		アーティスト移住者数 【目標指標値/29年度:0人 H30年度:1人 R1年度:1人】	1人	0人						
		移住体験(見学)アートツアーの開催 【目標指標値/29年度:1回 H30年度:2回 R1年度:2回】	2回	1回						
		ワークショップ等のイベント開催数 【目標指標値/29年度:1回 H30年度:2回 R1年度:2回】	2回	3回						
自己評価	実績評価 (目指す成果に対しての実績・達成度)	アーティスト移住者数について、旧大志生木小学校のアトリエ利用者から移住意向があったものの、居住先との調整により本年8月に移住となったため、平成30年度の指標値は未達成である。移住後は、地域住民との交流も順調に図れており、地域活性化に寄与できている。また、地域おこし協力隊との連携や活躍の場の創出を行うことで、任期終了後の大分市への定住につながった。 【独自に設定したKPIのH30指標値/実績値】 ●旧大志生木小学校を活用したアトリエ利用者数…6人(指標値)/4人(実績値) 移住体験(見学)アートツアーについて、当初、秋と冬に開催を予定していたが、国民文化祭の開催により受入先との調整が困難となり、秋開催分は未実施となったものの、個別相談者についてはアトリエ見学やアーティストとの意見交換等を実施した。また、冬開催分では、移住や空き家活用の各担当部署と連携した魅力的なプログラムを実施し、ツアー後の意識の変化や移住に求めるものなどをアンケートを通じて把握した。 【独自に設定したKPIのH30指標値/実績値】 ●移住体験(見学)アートツアーの参加者数…10人(指標値)/10人(実績値) ●個別の見学受入件数…5人(指標値)/2人(実績値) ワークショップ等のイベントについて、会場を佐賀関地区(旧大志生木小学校)に加え、新たに大南地区(河原内くすのきホール)でも地域、アーティストが連携・協力を図りながら実施し、市内外から多くの人が訪れるなど、地域の活性化に寄与した。また、アーティストの活躍の場の創出のため、大分都市広域圏で連携したイベントを大分市中心部で開催した。 【独自に設定したKPIのH30指標値/実績値 等】 ●イベント参加者数…500人(指標値)/430人(実績値)〈内訳:佐賀関320人、大南30人、中心部80人〉※大南地区は台風の影響により、地域の保育所に通う児童のみの参加となった。 ●地域との連携内容…地域の実情に応じて、地元産品の販売、駐車場の誘導、広報の協力、地域の魅力紹介などを行っていただいた。								
	今後の方向性・課題 ／ 改革案	本事業の柱である旧大志生木小学校のアトリエ活用については、令和元年9月現在、6人が利用しており、アーティストが移住・定住して活動するための拠点となっている。今後もアトリエ利用の需要が見込めることから、他地域における閉校舎のアトリエ利用について検討を進めるとともに、県内外のアーティストに対して積極的に情報発信を行う。 また、呼び込んだアーティストの定住につながるよう、地域と連携したイベントの開催や、集客力のある施設での大分都市広域圏と連携した作品発表等も実施していく必要がある。 さらに、旧大志生木小学校を利用するアーティストによる地域活性化の効果を広範囲へと波及させるべく、令和元年度は新たに野津原地区でもアートイベントを実施予定である。								
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		<table><tr><th>市町村名</th><th>内 容</th></tr><tr><td>竹田市</td><td>竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。現在、12人(移住者及び地域おこし協力隊)が利用している。</td></tr><tr><td>由布市</td><td>絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャビンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。昨年は国民文化祭に合わせて、地域と協力したアートフェスティバルを開催し、多くの親子連れでにぎわった。</td></tr></table>			市町村名	内 容	竹田市	竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。現在、12人(移住者及び地域おこし協力隊)が利用している。	由布市	絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャビンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。昨年は国民文化祭に合わせて、地域と協力したアートフェスティバルを開催し、多くの親子連れでにぎわった。
市町村名	内 容									
竹田市	竹田総合学院(旧竹田中学校) ※平成26年利用開始 竹細工のアーティストや地域おこし協力隊のアトリエとして貸し出すとともに、販路拡大等の支援を行う。現在、12人(移住者及び地域おこし協力隊)が利用している。									
由布市	絵本作家のアトリエ(旧石城西部小学校) ※平成23年利用開始 絵本作家のザ・キャビンカンパニーのアトリエ兼ギャラリーとして活用。昨年は国民文化祭に合わせて、地域と協力したアートフェスティバルを開催し、多くの親子連れでにぎわった。									
特記事項 (参考情報等)		平成29年・30年度の事業構築および実施は市政の総合調整を所管する企画課で行ったが、本事業のさらなる推進を図るため、平成31年4月に文化・芸術の振興によるまちづくりを所管する文化国際課に業務を移管し、事業の推進体制を強化した。								

③クリエイティブ産業育成事業

担当部局(所管課)		商工労働観光部(商工労政課)		事業開始年度	平成30年度
事業概要		《目的》 中小企業の持続可能な成長を遂げるためには、より付加価値の高い商品・サービスを開発することが求められることから、クリエイターや市内中小企業が出会う場を提供するとともに、市内クリエイターの育成に向けた取組を通じて、クリエイティブ産業の育成を図る。 《活動内容》 (1)講演会 地元クリエイターや中小企業関係者、学生等を対象に、ビジネスにデザインを取り入れ成功した経営者等による講演会や交流会を開催。 (2)パッケージデザインコンテスト 自社商品のパッケージリニューアル等を考える市内中小企業から課題となる商品を募集。市内に在住、通勤、通学するデザイナー等から、その商品のパッケージデザイン案を募集し、優秀作品を表彰するとともに商品化を目指すコンテストを開催。			
事業費		平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額	
		7,500 千円	7,280 千円	7,500 千円	
財源内訳	地方創生交付金	3,750 千円	3,011 千円	3,250 千円	
	県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	
	一般財源	3,750 千円	4,269 千円	4,250 千円	
重要業績評価指標 (KPI = Key Performance Indicator)					
指標名		目標値(平成30年度)	実績値(平成30年度)	達成状況	
① 本事業に基づく地元クリエイター等と企業の連携による商品・サービスの事業化件数		2 件	2 件	達成	
②					
③					
内部評価					
事業効果	A : 高い B : やや高い C : ふつう D : やや低い E : 低い				
評価理由	講演会では、第1回は(株)中川政七商店代表取締役会長の中川政七氏、第2回は(株)日本デザインセンター色部デザイン研究所所長の色部義昭氏にご講演いただき、計400名の方にご参加いただいた。多くのクリエイター、企業関係者、学生等にとって貴重な学びの場、出会いの場を提供できた点では、一定の成果があったものとする。 パッケージデザインコンテストでは、課題となる商品を公募したところ、市内中小企業(9社)から9商品の応募があった。この9商品のデザイン案の募集に、市内に在住、通勤、通学する方から127作品もの応募があり、審査の結果、8作品を表彰した。そのうち2作品については、課題提供企業と受賞クリエイターのマッチングにつなげ、実際の商品パッケージに採用されており、目標値を達成することができた。				
今後の方向性(考え方)	講演会については、今後も貴重な学びの場や出会いの場になるとともに、より実践的なセミナーとなるよう、地方都市での成功事例をもつ講師の招聘なども検討する必要がある。 コンテストの実施に当たっては、さらに事業効果を高めるため、市内に限定していたクリエイターの対象範囲の見直しや商品化を見据えた企業と応募者との情報共有の機会の提供、公式ホームページの有効活用といった実施方法の改善を図っていく必要がある。 こうした取組により、具体的な商品化事例や売上向上の成功事例を着実に生み出し、市内外へ発信することで、クリエイティブ産業の裾野の拡大や地元クリエイターの育成、さらには中小企業の販路拡大に繋げていく必要がある。				
外部行政評価委員会意見					

事業番号		3		平成30年度 地方創生推進交付金対象事業		
事業概要説明書						
事務事業名		クリエイティブ産業育成事業				
担当部署		商工労働観光部	担当所属	商工労働課	担当班・係 工業振興担当班	
事業開始年度		平成30年度	根拠法令等			
実施方法 (該当するものをすべてにチェック)		☒ 直接実施				
		☒ 業務委託又は指定管理(委託先又は指定管理者:特定非営利活動法人まち・文化再生プロジェクト)				
		☐ 補助金(補助先:		実施主体:		
		☐ その他()				
事業の概要	目的 (何のために)	「第2次大分市商工業振興計画」において、成長産業の1つとして「クリエイティブ産業」の育成を掲げており、中小企業の持続可能な成長のためには、従来の枠に囚われない新しい価値を創造し、より付加価値の高い商品・サービスを開発することが求められるため、「クリエイティブ産業の裾野の拡大」、「市内クリエイターの育成」、「クリエイターの発想・技術を活用した企業の販路拡大」を図ることを目的に、クリエイティブ産業育成事業として「おおいたデザイン・エイド」を実施した。				
	対象・手段 (誰(何)に対して何をするのか)	本事業の2本柱である「1. 講演会」と「2. パッケージデザインコンテスト」を中心に取り組んだ。事業初年度であり、本事業の認知度を高めていくため、公式ホームページを立ち上げ情報発信に注力するとともに、大分県の出組や、地元の大学等との連携を深め、より多くの中小企業やクリエイター、学生等に対する訴求力を高めてきた結果、多くの方の参加に繋げることができた。 1. 講演会 地元のクリエイター(デザイナー等)や中小企業関係者、学生等を対象に、ビジネスにデザインを取り入れ成功した経営者や、クリエイターとしての成功者による講演会を開催した。 (1)中川政七氏講演会 開催日:平成30年10月28日(日) 会場:平和市民公園能楽堂 演題:「経営とデザインの幸せな関係」 講師:中川 政七氏 (株)中川政七商店 代表取締役会長 参加者数:280名 (2)色部義昭氏講演会 開催日:平成31年2月10日(日) 会場:iichikoアトリウムプラザ 演題:「目印と矢印〜グラフィックデザインができること〜」 講師:色部 義昭氏 (株)日本デザインセンター色部デザイン研究所所長 参加者数:120名 2. パッケージデザインコンテストの開催 自社商品のパッケージリニューアル等を考える市内中小企業から、コンテストの課題となる商品を募集し、課題となった商品のパッケージデザイン案を市内に在住、通勤、通学するデザイナーや学生等から募集し、優秀作品を表彰するとに、商品化を目指すコンテストを開催した。 ○パッケージデザインコンテストの結果 課題数:9商品(市内中小企業9社) 応募総数:127点、1次審査通過作品:46点、2次審査を経た受賞作品:8点 受賞8作品を制作したデザイナー、学生等の表彰式を開催した。(色部義昭氏講演会と同日) 平成31年2月12日〜3月22日の期間、大分銀行赤レンガ館ATM横のスペースにて展示を行った。				
事業の必要性		個人の価値観の多様化・高度化が進み、市場競争が激化する現代において、中小企業が持続可能な成長を遂げるためには、様々な分野で従来の枠に囚われない新しい価値を創造し、より付加価値の高い商品・サービスを開発することが求められており、クリエイターの学びの場、活躍の場を提供し地元クリエイターを育成・発掘するとともに、クリエイターの発想・技術と中小企業のニーズをマッチングし、販路拡大や課題解決に繋げる取組が必要であることから、「クリエイティブ産業育成事業」を実施する。 また、大分県が推進する「クリエイティブプラットフォーム構築事業」等との連携による相乗効果を期待できることから、この時期に本事業に取り組むことが大変有益であるとする。				

年 度		平成30年度(予算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
直接事業費		7,500 千円	7,280 千円	7,500 千円
財 源	地方創生交付金	3,750 千円	3,011 千円	3,250 千円
	県支出金	千円	千円	千円
	一般財源	3,750 千円	4,269 千円	4,250 千円
事業実績・目標		重要業績評価指標(KPI)		実績値 (平成30年度)
		目標値 (平成30年度)		実績値 (平成30年度)
		本事業に基づく地元クリエイター等と企業の連携による商品・サービスの事業化件数		2
				2
自己評価	実績評価 (目指す成果に対しての実績・達成度)	1. 講演会 第1回目は、ビジネスにデザインを取り入れて成功した経営者として、(株)中川政七商店代表取締役会長の中川政七氏に、第2回目は、デザインの分野で大きな実績を持つクリエイターとして、(株)日本デザインセンター色部デザイン研究所所長の色部義昭氏にそれぞれ講演いただき、多くのクリエイター、企業関係者、学生等にとって学びの場、出会いの場とすることができた。 2. パッケージデザインコンテスト コンテストの課題となる商品を公募した結果、市内中小企業(9社)から9商品の応募があった。これらの課題を公式ホームページやチラシ等で公開し、9つの課題に対して、市内に在住、通勤、通学する方からパッケージデザイン案を募集した結果、127作品もの応募があった。審査の結果8作品を表彰し、そのうち2作品については、課題提供企業と受賞クリエイターのマッチングに繋がり、実際の商品パッケージに採用されることが決定した。		
	今後の方向性・課題／改革案	1. 講演会 2回の講演会は、大好評であり内容も充実したものであったが、地方の中小企業、クリエイター等にとって、よりリアリティのある内容を学ぶ機会を提供する必要性を感じたため、令和元年度は、大分市と同様の地方都市で活躍するクリエイター、経営者を講師として3名招き、3回のセミナーを開催する。 2. パッケージデザインコンテスト 初年度の成果として2件が具体的な商品化へ進むことができたが、その他については、デザインの採用に繋げることができなかったことから、令和元年度は、デザインの採用を前提とした仕組に改め、これを補完するため、課題商品に関する情報量、情報提供の方法を見直し、応募者と課題提供企業の接触の機会を設けることとする。(公式ホームページの情報量、質の向上、課題提供企業による商品説明、試食・試飲会の実施等) さらに、応募作品のデザインを採用した商品の販路開拓に繋げるため、大都市圏で開催される見本市において「おおいたデザイン・エイド」ブースとして出展する。		
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)		「かごしまデザインアワード」 鹿児島地域の特産品をはじめとする商品や企業、観光地などにデザインを結びつけ、販売促進及びデザイナーの育成を図ることを目的としています。鹿児島市内はもとより、全国の優秀なデザイナーから既存商品のデザインリニューアルや企業課題に基づいたデザインを募集し、選ばれたデザイナーと各企業とが知恵を出し合うことで大都市圏や海外マーケット等に向けた商品を創造します。(公式ホームページより転載) ・主催:鹿児島市(運営委託先:(株)創企堂) ・実施回数:7回 ・テーマ:「鹿児島をリデザインする。」 ・課題提供企業数(課題商品数):4〜6課題 ・作品募集対象:全国(個人、企業、団体、グループの別年齢、性別、職業、国籍不問) ・応募総数:200〜300作品		
特記事項 (参考情報等)				

④大分市産業活性化プラザ事業

担当部局(所管課)		商工労働観光部(創業経営支援課)		事業開始年度	平成18年度
事業概要		《目的》 これから創業しようと考えている人や中小企業者の新たな事業活動等を支援し、地域産業の活性化及び中小企業者の技術力向上を目的とする。			
		《活動内容》 (1)創業や経営に関する相談・支援 創業者等に対してインキュベーションマネージャーや各種相談員が経営や財務に関する情報提供、経営上の問題点の整理及び課題解決のための手法に関する提案等を行う。			
		(2)インキュベーションルームの設置 これから創業しようとする人が安価な賃料で入居でき、24時間365日使用可能な「創業支援ルーム」を13室設置。			
		(3)セミナーの開催 地域産業の活性化や中小企業の技術力向上を図るため、企業経営、職場改善や創業等について講座を開催。			
事業費		平成30年度 予算額	平成30年度 決算額	令和元年度 予算額	
		23,965 千円	23,965 千円	25,677 千円	
財源内訳	地方創生交付金	11,095 千円	11,095 千円	11,095 千円	
	県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	
	一般財源	12,870 千円	12,870 千円	14,582 千円	
重要業績評価指標 (KPI = Key Performance Indicator)					
指標名		目標値(平成30年度)	実績値(平成30年度)	達成状況	
① 大分市の創業支援機関等に係る創業者数		200 人	175 人	未達成	
②					
③					
内部評価					
事業効果	A：高い (B：やや高い) C：ふつう D：やや低い E：低い				
評価理由	指標としている創業支援機関等に係る創業者数については目標を達成できていない。しかし、インキュベーションマネージャーをはじめとした専門家が行う相談業務は、前年度比10.2%増の延べ1,272人に利用されるなど、本市における創業の促進や中小企業の経営改善等に寄与している。また、インキュベーションルームには、平成30年度、3者が新規入居し、3者が卒業した。これから創業しようとする人が安価な賃料で24時間365日使用でき、各種相談員からの支援も受けられる本施設は、本市が新たなビジネスへの挑戦を支援する上で今後とも重要な拠点になると考える。さらに、創業や企業経営、職場改善など、さまざまなテーマのビジネス講座を計61回開催するなど、貴重な学びの機会も創出している。				
今後の方向性(考え方)	本施設は、本市の創業や中小企業支援の拠点となっている。今後とも、関係機関と連携を図りながら、専門性の高い、きめ細かな相談・支援や受講者のニーズに即した多様なセミナーの実施等により、女性・高齢者も含めた創業の裾野の拡大や地場中小企業の経営基盤の強化を図り、地域産業の活性化につなげるなど、引き続き、本市における産業振興の中核施設としての役割を果たしていく必要がある。				
外部行政評価委員会意見					

事業番号		4	平成30年度 地方創生推進交付金対象事業			
事業概要説明書						
事務事業名		大分市産業活性化プラザ事業				
担当部局		商工労働観光部	担当所属	創業経営支援課	担当班・係	創業・経営担当課
事業開始年度		平成30年度	根拠法令等			
実施方法 （該当するものすべてにチェック）		☐ 直接実施				
		☒ 業務委託又は指定管理（委託先又は指定管理者：株式会社コンベンションリンケージ）				
		補助金（補助先：		実施主体：		
		☐ その他（				
事業の概要	目的 （何のために）	本市では、創業者及び中小企業者の事業活動を支援することにより、地域産業の活性化及び中小企業者の技術力の向上に寄与するため、大分市産業活性化プラザを設置している。				
	対象・手段 （誰（何）に対して何をするのか）	大分市産業活性化プラザには、創業に関する相談や中小企業等の経営、人材、情報化、技術等の様々な課題や悩みを相談できる専門家がいる。また、これから創業しようとする人が、安い賃料で入居することができる創業支援ルームがあり、入居者は、創業や経営等について相談できるインキュベーションマネージャーの支援を受けることができる。ほかにも、創業や中小企業の人材育成を支援するビジネス講座も定期的に開催しており、誰もが活用できる施設となっている。 1.創業や経営に関する相談・支援 創業者等に対し、経営や財務等に関する情報提供、経営上の問題点の整理及び課題解決のための手法に関する提案、市内中小企業者等に対する経営、人材、情報化、技術等の課題等に関する助言等をきめ細かにを行い、効率良く実効性の高い相談・支援業務を行うことで、相談者の持続的な成長及び事業の発展を促進する。 ＜相談受付体制＞ インキュベーションマネージャー：6名 技術支援相談員：3名 中小企業診断士：1名 大分県発明協会相談員：3名 大分県中小企業団体中央会相談員：2名 2.インキュベーションルームの設置 本施設では、これから創業しようとする人が安い賃料で入居することができ、24時間365日使用可能な「創業支援ルーム」を13室設置しており、創業や経営等についてインキュベーションマネージャーや各種相談員からの支援を受けることで入居者を企業として自立可能な状態へ成長させ、市内への定着を促進する。 3.セミナーの開催 創業者、中小企業者支援等に関するセミナーの開催を通じて、創業に対する意欲の向上や気運の醸成、中小企業の人材育成や経営力の強化に努める。 ＜平成30年度開催セミナー＞ セミナー名：「めざせ！3年在社率100％セミナー」「女性のためのリーダー育成塾」「高校生向け起業家育成実践講座」など、計61回開催した。				
	事業の必要性	本市では、創業及び中小企業支援の拠点である大分市産業活性化プラザにおいて、創業者や創業を希望する人に対し、入居施設の提供や専門相談員による創業相談の実施、さらに創業に関するセミナーの開催など、ハードとソフトの両面から支援を行ってきた。 今後とも、創業しやすい環境づくりを行うため、創業マインドの醸成や経営ノウハウの提供等、多方面からの支援を推進していくことが必要である。				

年 度		平成30年度(予算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
直接事業費		23,965 千円	23,965 千円	25,677 千円
財 源	地方創生交付金	11,095 千円	11,095 千円	11,095 千円
	県支出金	千円	千円	千円
	一般財源	12,870 千円	12,870 千円	14,582 千円
事業実績・目標		重要業績評価指標 (KPI)		目標値 (平成30年度)
		実績値 (平成30年度)		
		大分市の創業支援機関等に係る創業者数(人)		200
				175
自己評価	実績評価 （目指す成果に対しての実績・達成度）	大分市産業活性化プラザが行った創業支援事業の平成30年度実績は以下のとおり。 1.創業や経営に関する相談・支援 創業相談人数：1, 272名 2.インキュベーション施設の設置 新規入居事業者数：3者 卒業事業者数：3者 3.セミナーの開催 セミナー実施回数：61回 セミナー受講者総数：1, 302名 創業者数については、大分市単独の目標件数である年間200件には届かなかったものの、概ね順調に推移している。		
	今後の方向性・課題 ／ 改革案	利用者の利便性向上を目的として、産業活性化プラザの休館日を変更する。 また、セミナーに関しては、セミナー受講者のニーズに即したセミナーとなるよう、講師の選定やテーマの設定を改善していく。		
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）		【鹿児島市】 施設名：ソフトプラザかごしま 運営費用：28, 777千円 体制：直営（業務委託含む） インキュベーションマネージャー1名を配置（配置日数：週3日） 支援内容：インキュベーションマネージャーによるハンズオン支援 （経営相談、ビジネスマッチング、販路開拓等） 年4回 情報交流連絡会開催（入居企業とOB企業の交流） 年2回程度 ビジネスクラススキルアップセミナー開催 入居室数：24部屋（年中無休・24時間稼働）		
特記事項 （参考情報等）				